

第94回 全国高校 ラグビー

「バッグスは全国でも西村保久監督(44)は選手たちは制服姿のままラインアウトの練習を繰り返す。時間にして10分弱。土佐塾ラグビー部の日課だ。高知県内有数の進学校であり、校内テスト期間前から放課後の練習は禁じられる。昼休みはボールに触る貴重な時間だ。



土佐塾

(高知)

＝3年連続14回目

展開力「歴史変える」



制服姿のままラインアウトの練習をする土佐塾の選手たち

通用できると思う。その攻めを最大限に生かせるかは、FWの出来が鍵。ラインアウトはその一つと説く。花園で高知勢として初勝利を挙げたから16年。大会2勝目に向け、今

大会には例年以上に手応えを感じて臨む。今年7月の全国7人制大会で8強入りする躍進を遂げた。予選リーグでは茗溪学園(茨城)を33-10で撃破。花園で前々回4強、今

大会もBシードに選ばれた強豪に対し、相手の看板の展開ラグビーで真っ向勝負して勝ったのだ。15人制以上に走力が求められる7人制で勝てたのは、投げて走れ

土佐塾中ラグビー部出身者が多く、中学時代から高校でのバッグスを見据えてパス技術を磨いてきた。例年より好選手が多いうえ、7人制での「全国8強」の実績が指揮官の「手

るタイプがそろっていいからだ。高校日本代表候補のFB・金崎廉大朗主将(3年)ら50秒前後の俊足選手がいるうえ、全員がロングパスを出せる。左右に大きくパスを振り、相手の守備網が間延びした所を突いた。3年生たちは昨季から展開ラグビーの中核を担うなど経験豊富。

高知勢の大会通算勝利数は、3年前の高知中央を含めてわずか2勝。金崎は「高知は『全国で勝てない』と言われている。歴史を変えたい」と誓う。夏のように駆け抜けられれば、冬の勝利は見えてくるはずだ。

【安田光高、写真も】